

イヤホンの安全な使用について

畑中登仁（兵庫県立北摂三田高等学校 HGLC）

序論

研究テーマを取り巻く現状

6、7割の人がイヤホンを着用して生活をしている。しかし、イヤホンをつけることで、周囲に対する注意力が低下したりするため、危険である。また、道路交通法で運転中にイヤホンを使う行為自体は明確に禁止されていない。

例として、

・2017年12月神奈川県スマートフォンを片手に電動アシスト自転車を運転し、歩行者の女性(77)にぶつかって死亡させたとして川崎市麻生区の女子大生(当時20)が逮捕された。

・2018年11月に東京都大田区でイヤホンを付けたまま自転車を運転し、それを避けようと急ハンドルを切った車が主婦にぶつかった。その容疑者としてイヤホンを付けて自転車を運転していた大田区の医師の男が書類送検された。

リサーチクエスションの内容

危険性、原因などの視点から、現状を解決するための解決策を導き出す。

先行研究と仮説

先行研究から

イヤホンをつけることで、行動が抑制される。

イヤホンを付けているので、アナウンスを聞いていない。

研究に取り組む意義

日々生活している中で、人々のイヤホンの着用が危険だと思い、よりよくしたいと考えた。

仮説

・人々のイヤホンに対する意識が低い（安全確認を行っていない等）ため、危険性が高まっている
→パターンを整理して、各場合の解決策を考える

・一人でいる時にイヤホンを着けているため、周囲に注意してくれる人がおらず、危険である

仮説の根拠／研究手法・結果考察

自分の立てた仮説とその根拠

時、場合、場所等を工夫することで、イヤホンをよりよく使うことができる。

研究手法

- ・イヤホン着用に対しての意識、危険性について調べる
- ・先行研究とアンケート等から、自分の考えを固める

研究結果

- ・そもそもイヤホンを付けている人が多くない
- ・イヤホンを付けることに危険意識を持っている人が多い
- ・片耳装着をしてイヤホンを聞く

→先行研究より

道路交通法は都道府県によって内容が異なるので、片耳なら問題ないとしている都道府県もある。しかし、片耳イヤホンで自転車走行した場合、緊急音（救急車のサイレン、急ブレーキ音など）がイヤホンを付けた耳側で鳴っても、イヤホンを付けていない耳側で鳴っているように方向を錯覚する現象が実験で見られた。

仮説の根拠／研究手法・結果考察

自分の立てた仮説とその根拠

時、場合、場所等を工夫することで、イヤホンをよりよく使うことができる。また、二人以上でいるときより一人でいるときのほうが、事故に遭いやすい。

研究手法

・イヤホンを着用時、どんな危険を感じたか、アンケートを取る

結果・考察

(1)危険を感じたことがありますか？ → ある：21% (34人)

ない：79% (121人)

(2)その時は一人ですか？ → 一人：100% (34人)

(3)その時の状況について → 歩いていた：68% (23人) 自
転車に乗っていた：18% (6人) その他：14% (5人)

このことから、五人に一人の確率で危険を感じたことがある。
一人でいるときに危険を感じる場合が多い。”歩いている”や”
自転車に乗っている” など移動時に危険を感じている。



結論・展望

解決策

・イヤホンの音量制限をする

→周りの音が耳に入るようにする

・一人でいることを減らす

→イヤホンを付ける機会が減る

・イヤホンを付けて同時に行動、作業をすることを減らす

→耳に集中してしまい、ほかの行動がおろそかになる

・歩きながらの使用を避けるため、歩数アプリが歩数を検知した場合、強制的に画面をロックする。

以上から、イヤホンをよりよく使うには音量制限をしたり、一人でいる時間を減らすなど自分で意識して対策することが必要だと考えた。

結論

解決策を挙げたが、”自分で意識して解決する”ことが多かった。また、アプリの開発が自分ひとりの力では難しく、実現できそうにないと思った。

展望

今後、インターネット等で簡単に音楽などが聴けるようになると、より多くの人がイヤホンを使うと考えられる。そのことにより、イヤホンによる事故が増えると考えられる。そのため、イヤホンについて法律で決めるなど対策を考える必要がある。

参考文献

運転中にイヤホンを使うと違反？片耳イヤホンや自転車の運転中は？ | アトム法律事務所弁護士法人

街路歩行時の携帯電話操作とイヤホン使用に影響を及ぼす要因の研究

歩行中・自転車運転中の“ながらスマホ”時の視線計測と危険性の考察

siryu07.pdf (npa.go.jp)